

アスファルト合材製造量過去最低

24年度は2.3%減の3552万t

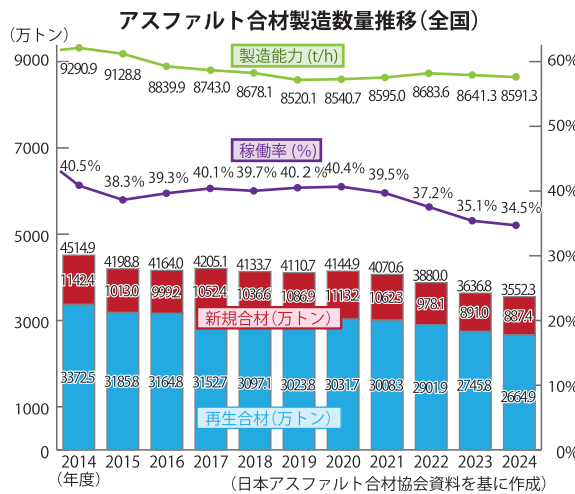
日合協

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）がまとめた「アスファルト合材統計年報」（2024年度版）によると、会員外工場を含む合材製造量は前年度比2・3%減の3552万tとなり、過去最低を更新した。

調査対象は全国1009工場で、回答数は955工場（回収率94・6%）。新規材は0・4%減の887万tで高規格道路向けが中心。再生材は2・9%減の2664万tで、一般道向けが多い。再生材比率は75・0%で、ここ10年ほどは新規材1に対して再生材3の構成が続いている。

地域別では、仮設プラントを除く製造量が全9地域中6地域で減少。減少幅が最大だったのは東北の6・5%減（380万t）、最小は四国の0・9%減（113万t）。一方、北海道（3・7%増、220万t）、北陸、近畿の3地域では増加した。都道府県別では、前年から増加したのは17道府県（北海道、青森、山梨、富山、石川、三重、滋賀、大阪、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、宮崎）で、前年の7県から大幅に増えた。増加幅が最も大きかったのは滋賀県の21・9%増（53万t）、次いで石川県の20・9%増（60万t）。製造量最大は埼玉県の226万t（5・7%減）。

工場の1時間当たり製造能力合計は0・6%減の8万5913t。平均稼働率は0・6t減の34・5%だった。地域別では関東（45・2%）、中部（37・6%）、近畿（37・5%）が全国平均を上回った。都道府県別では東京が最高の59・2%、長野が最低の15・7%。出荷先は、市町村道向けが最多で1165万t（全体の3割超）、次いで民間1032万t、都道府県道735万t、国道228万t、高速道路会社220万t、他官庁156万tの順だった。



（日本アスファルト合材協会資料を基に作成）

出荷先は、市町村道向けが最多で1165万t（全体の3割超）、次いで民間1032万t、都道府県道735万t、国道228万t、高速道路会社220万t、他官庁156万tの順だった。

